

「いつまでもわが家で暮らしたいをささえる」 ～支える人@ケアマネジャー



◆プロフィール◆

林田 知久

居宅介護支援センター青海苑 管理者

宇城市介護保険サービス従事者連絡協議会

介護支援専門員部会 部会長

趣味：歴史研究 音楽鑑賞 ウォーキング

地域・医療・介護の連携で

「いつまでもわが家で暮らしたいを支える」

ケアマネジャーとして、今まで数多くの介護相談を受け付け対応してきました。中でも一番相談内容として多いのが、認知症が進行した事で、家族だけでの介護や支援が限界に達し、介護疲弊での相談ケースです。

認知症は初期症状の段階から、かかりつけ医など医療機関での受診が重要です。早期に受診し、認知症の診断を受ける事が大切です。認知症の診断時に、認知症の種類が分かります。認知症の種類で、これからどの様に症状が変化していくのか、ある程度予測できるようになります。

介護保険サービスによる支援が必要と医師が判断したら介護保険の申請など適切なアドバイスもして頂けます。今後の介護の方向性もケアマネジャー等の専門職が関わっていく事で計画的に行えますし、本人の終活の意向も含め家族全体で事前に話し合える時間も出来ます。その結果、家族の精神的な不安の軽減にも繋がってきます。

また、認知症の種類を特定する事によって治療が出来たり内服薬により症状を遅らせたり和らげることも出来る認知症もあります。

かかりつけ医から処方薬の服用と並行して介護保険サービスや介護予防事業などを併用利用する事で、認知症の進行を予防する効果が上がります。住み慣れた地域の様々な社会資源を活用する事が「いつまでもわが家で1日でも長く暮らしたい」を実現できる事に繋がります。

認知症は、身近な同居家族等は気づきにくい傾向にあると言われていいますので、近所の方や交友関係のある周囲の方々が「あれっ？以前と違うかな」の変化に気づく事が大切です。変化に気づいた場合は、かかりつけ医や最寄りのケアマネジャー相談窓口、行政、地域包括支援センター等へ相談頂くよう「声かけ支援」して頂くだけでも「重要な支援」になります。

在宅介護は、家族や親せきだけでなく地域全体で見守りや支援をしていくことも大切なポイントの一つです。私たちケアマネジャーも市民の皆様の「いつまでもわが家で暮らしたい」を支えていく存在でありたいと思います。



利用者様のご自宅や介護保険サービス事業所を訪問します。

ケアマネジャーとは？

ケアマネジャーは、介護や支援を必要とする人をサポートする仕事です。利用者様やそのご家族が、安心して生活を送れるように、心身の状況や生活環境を踏まえ、どのようなサービスが必要なのかを把握してご本人・ご家族の意向に合わせケアプランを作成します。利用者様が適切なサービスを受けられるようにサービス事業者や自治体に連絡、申請等を行い、各種調整を行います。